



◀ そのほかの取材記事はこちらから ▶

市内のイベント情報ははこちらから ▶

向坂奈穂美 赤こりリポーター

LEGO で挑戦！
小さな安土城

7月21日、安土城郭資料館でお笑い芸人でLEGOマスター「まっこん」を招いた親子イベントが開かれました。

総勢120組程の応募があった人気イベント。参加した親子は、パーツの名前や組み立て方を教わりながら、ミニサイズの安土城作りに挑戦しました。

完成した安土城はなんと収納スペース付き。楽しい仕掛けがありました。説明書のないまっこんさんのオリジナル作品は、どれも動かして遊べる仕掛けがあります。大きな剣やソフトクリームなどの作品を手に取り、「これはどんな仕掛けがあるのかな」と、子どもはもちろん大人も興味津々で夢中になれるひとときでした。

山田恵美 赤こりリポーター

まちの防災力の要
さまざまな形で活躍「消防団」

市では12分団の「消防団」が活躍しています。団員の多くは、本業を持ちながら平時は火災予防や広報活動を、災害時は消防隊と連携した消火活動や救助・救護活動、避難誘導など地域の安全を守っています。機能別団員（ドローン隊、船舶隊、災害支援隊）といった特定の活動にのみ参加する団員や、保育所などへ防火訪問や火災予防などの広報・啓発活動を主体に活動する女性団員など、性別を問わず自身のライフスタイルに合わせて「一人一人ができること」に取り組まれています。みんなの街をみんなで守り、支える。安心して暮らせる街づくりに貢献してくれています。

松村美沙枝 赤こりリポーター

「輝け八中みんなの学校」
8888号を発行！

八幡中学校の生徒会新聞「輝け八中みんなの学校」が、7月17日に8888号を発行しました。この新聞は昭和59年から発行。代々生徒会執行部によって大切に受け継がれ、基本的に学校のある日に毎日発行されています。

記念すべき8888号は、「僕・私が描く未来の八中」がテーマ。「輝け（生徒会新聞）がずっと受け継がれる」「おれが校長になる」など、生徒から募った思いの未来の姿が記念すべき号を彩りました！

三上香帆 赤こりリポーター

水面に映る青葉と涼風
時を超えて巡る夏の「八幡堀めぐり」

夏ならではの青々とした柳が水面に美しく映える八幡堀。乗船前は暑さが心配でしたが、舟が進むにつれて心地よい風が通り抜け、水の上ならではの涼やかな空気を満喫できます。白壁の土蔵や重厚な石垣が続く水路を低い目線で進むと、城下町が築かれた安土桃山時代から続く歴史のロマンに包まれ、まるで当時にタイムスリップしたかのような錯覚にとらわれます。

日牟禮八幡宮や白雲館からも徒歩圏内でアクセスも抜群。季節によって変わる景色を堪能してみませんか？歴史のロマンと夏の涼を感じる、極上の水上散歩でした。

7月19日

浅小井祇園祭
伝統の曳山が町を巡る

浅小井祇園祭は、江戸時代に疫病退散を願い始まったとされる祭礼です。今年も浅小井町内を6基の曳山が練り歩きました。

曳山とイ草の館前では、6つの「小路」と呼ばれる組ごとに、5月頃から制作を進めてきた曳山に飾る干支や世相をモチーフにしたダシがお披露目されました。その後、曳山は約1時間かけて集落内を巡り、津嶋神社の鳥居前に勢ぞろい。町内の子どもたちが横笛や太鼓などで祇園囃子を奏でると、盛大な拍手が送られました。18日の宵宮祭では大たいまつ奉火も行われました。

例年午後に実施される曳山巡行は、酷暑を考慮して朝に早められました。総代代表の松本さんは「朝でも暑かったですが、祭りが無事にできて良かった」と話していました。

7月25日

第70回目「お水取り」
琵琶湖の水を富士山頂に

富士山頂に献水する水をくむ「お水取り式」が、水ヶ浜（長命寺町）で行われました。「巨人が掘ってできたのが琵琶湖で、掘りだされた土が富士山になった」という伝説にちなみ、毎年、富士山頂へ琵琶湖の水を献水するとともに、富士山の霊水を琵琶湖へ注いでいます。この伝統行事は、「富士と琵琶湖を結ぶ会」によって昭和32年から続けられており、これが縁で昭和43年に静岡県富士宮市と「夫婦都市」の盟約を結んでいます。同会会長の岡山かよ子さんは「先人たちが約70年にわたって築いてきた富士宮市との親善の絆を、これからも次の世代へつないでいけるよう、その役割を果たしていきたい」と話しました。

7月30日



八商15年ぶり8回目の夏の甲子園へ

7月25日に行われた県予選で優勝し、八幡商業高等学校が15年ぶりに第108回全国高等学校野球選手権大会への出場を果たしました。30日は市文化会館で壮行会が開かれ、小川健太監督から野球部を支えてきた学校や地域の人々への感謝の言葉が述べられました。また、主将の桑原太暉さんは「夏の大会で初のベスト8を目指す」と力強く決意を語りました。

8月7日に行われた初戦では最後まで粘り強く健闘しましたが、群馬県代表の高崎健康福祉大学高崎高等学校に惜しくも敗れました。学友や家族、市民らの期待と声援を胸に、精一杯戦い抜いた選手たちに、厚い賞賛を送ります。

7月25日

土の温もりを感じて
世界に一つだけの器を作る親子陶芸体験

「親子陶芸体験」が安土コミュニティセンターで開催され、市内の親子21人が参加しました。

親子で土に触れながら、全員が手びねりでお茶碗や湯呑を一人ひとりずつ制作しました。世界に一つだけ自分だけの作品作りに、会場は笑顔と活気に包まれ、参加者は思いの作品を丁寧に仕上げていました。初めて陶芸体験に参加した片岡優菜さんはとても没頭した様子で作品に向き合い、「形を整えるところが一番楽しかった」と話してくれました。

参加者の熱がこもった作品は、12月上旬に焼きあがる予定です。完成を心待ちにする親子の表情が印象に残る、心温まる催しとなりました。